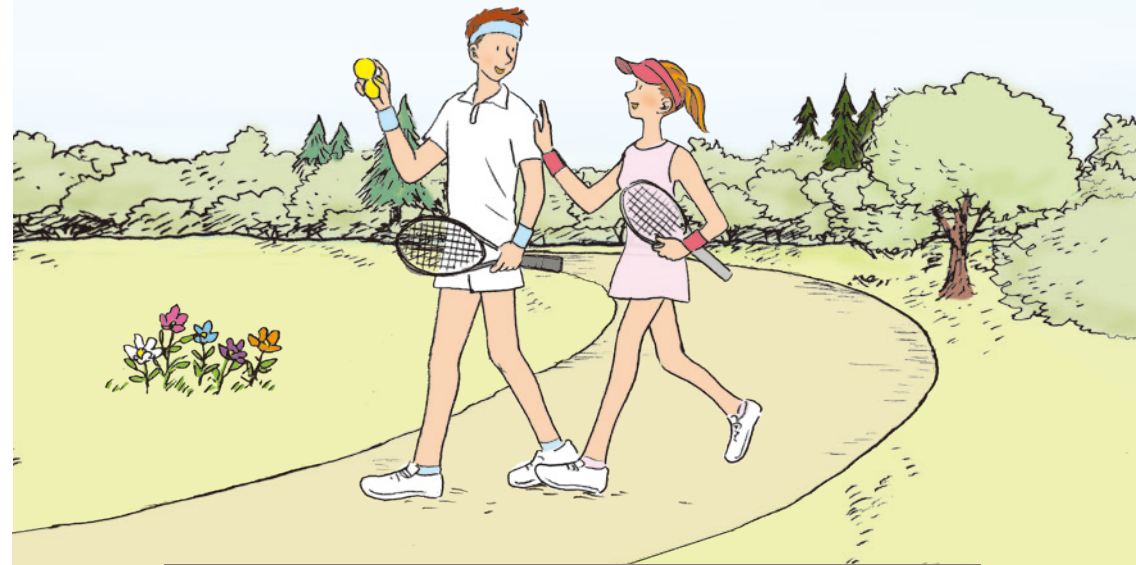


デュピクセント®

自己注射のためのガイドブック

監修 NTT東日本関東病院 皮膚科 部長 五十嵐 敦之 先生



デュピクセント®相談室

デュピクセント®の操作方法に関するご質問に、24時間365日、
専任スタッフがいつでもサポートします。

0120-50-4970 (フリーダイヤル)
24時間365日

サノフィ株式会社

〒163-1488
東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

はじめに

このガイドブックでは、患者さんご自身またはご家族・介助者の方が「デュピクセント®皮下注300mgシリンジ」を、安全に自己注射するための方法をご紹介します。

デュピクセント®の注射は、まず最初に医師や看護師の指導のもとに医療機関で練習します。そして注射が正しくできるようになったことを医師や看護師に確認してもらい、許可が出てから自己注射に移行します。

自己注射について分からないことや不安なことがあれば、いつでも主治医や看護師に相談しましょう。操作方法に関するご質問は24時間365日対応のデュピクセント®相談室（▶表紙を参照）もありますので、そちらに相談することもできます。

自己注射に際しては十分な体調管理も大切です。何か気になる症状があれば、速やかに主治医に連絡してください。

目次

デュピクセント®使用時の注意点	P3
注射のスケジュール	P4
医療機関から受け取るもの	P4
注射器の保管の仕方	P5
注射前の準備	P6
注射する部位	P7
注射の方法（補助具なし）	P8
注射の方法（補助具あり）	P10
注射器の廃棄方法	P12
治療日誌への記入について	P13
よくあるご質問	P14

デュピクセント®使用時の注意点

＜アレルギー性疾患をお持ちの方への注意点＞

- デュピクセント®で治療中の疾患以外に、他のアレルギー性疾患（喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、じんましんを含む）を合併している場合は、必ずデュピクセント®の治療について合併するアレルギー性疾患を担当する医師に相談してください。
- 合併しているアレルギー性疾患の症状悪化を防ぐため、処方されているその疾患の治療薬を自己判断で減量、中止しないでください。

＜デュピクセント®投与中の注意点＞

- デュピクセント®投与中に、血中の好酸球数が増えることがあります。下記の症状がみられたら、主治医に相談してください。
主な症状：発疹、むくみ、咳、発熱、だるさ、息切れ、呼吸困難、呼吸時に「ゼーゼー」音がる、血痰（血液の混じった痰）、動悸、息苦しさ、手足のしびれ、麻痺（動きが悪くなる）など

＜デュピクセント®以外に処方されている併用薬について＞

- 気管支喘息およびアトピー性皮膚炎に対する下記併用薬については、自己判断で中止せず、主治医の指示通りに使用してください。
気管支喘息：吸入または経口ステロイド薬、その他の長期管理薬（長時間作用性 β_2 刺激薬、ロイコトリエン受容体拮抗薬など）
アトピー性皮膚炎：経口ステロイド薬、外用剤など

＜発現する可能性のある副作用とその症状について＞

過敏症反応

デュピクセント®の投与により、過敏性反応が現れることがあります。下記の症状がみられたら、投与を中止し速やかに主治医に相談してください。

主な症状：ふらつき感、息苦しさ、心拍数の上昇、めまい、嘔気、嘔吐、
皮膚のかゆみや赤み、関節痛、発熱 など

※これらの症状がみられた場合には、次の受診日を待たずに、速やかに受診してください。
※これらの副作用は注射直後だけに起こるとは限りません。

その他の副作用

以下の副作用が現れることがあります。症状が現れた場合には、速やかに主治医または看護師、薬剤師にお伝えください。

- 注射部位反応**：デュピクセント®を注射した部位に、発疹や腫れ、かゆみなどの症状がみられる場合があります。
- ヘルペス感染**：口周りや唇に発疹などがみられる場合があります。
- 結膜炎**：目やまぶたの炎症症状（赤み、腫れ、かゆみ、乾燥など）がみられる場合があります。また、デュピクセント®は免疫の働きを抑えるため、寄生虫に対する抵抗力が弱まり、寄生虫感染しやすくなる可能性もあります。寄生虫感染の可能性のある方は主治医にご相談ください。

※上記以外でも、異常が現れたり何らかの症状が悪化した場合は、副作用の可能性があるので、必ず主治医に相談し、主治医の指示に従ってください。

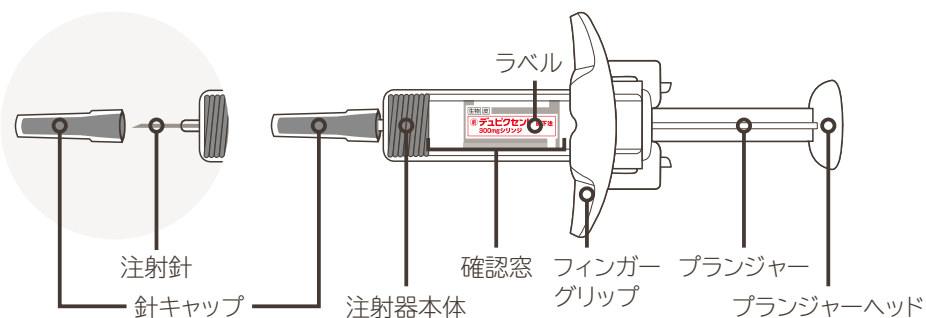
注射のスケジュール

- デュピクセント®は投与開始日のみ、2本を皮下注射します。
その後は2週間に1回、1本を皮下注射します。

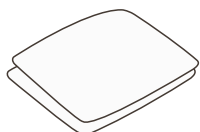


医療機関から受け取るもの

① デュピクセント®注射器



② 消毒用 アルコール綿



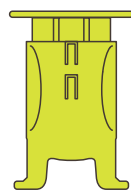
③ 廃棄用容器



④ デュピクセント® 治療日誌



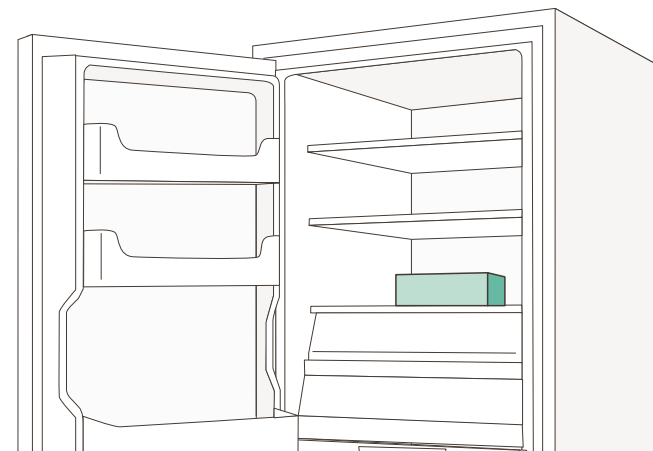
⑤ 補助具※ (マイデュピ)



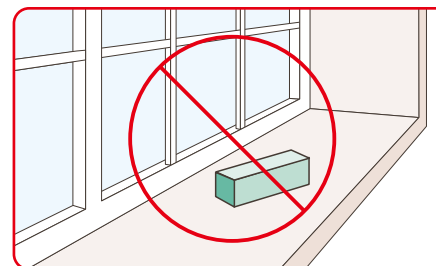
※希望された場合

注射器の保管の仕方

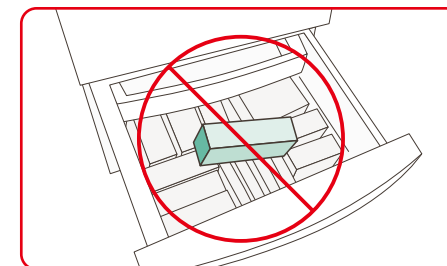
- 帰宅後は、デュピクセント®を
箱に入れたまますぐに冷蔵庫 (2～8℃) ※で保管してください。



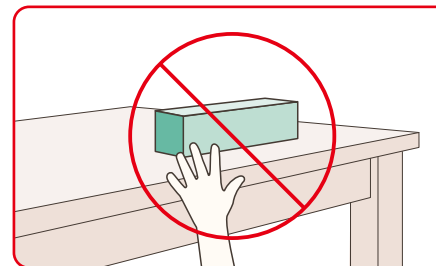
※注射液が凍ってしまう可能性があるため、チルド室、野菜室、冷蔵室の冷気の吹き出し口付近には、保管しないでください。



高温、直射日光にさらさないでください。



冷凍庫には入れないでください。



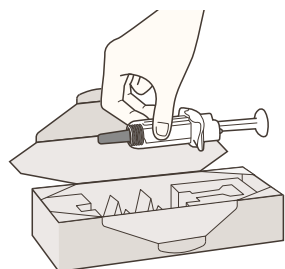
お子さんの手の届かないところに置いてください。

- 注射器を振らないでください。
 - 注射器を温めないでください。
 - 注射器を凍らせないでください。
 - 冷蔵庫から出した後は長時間放置しないでください。
- ⚠ 注意

注射前の準備

① 注射器を取り出す

箱を冷蔵庫から取り出し、
注射器本体を持ち、
箱から注射器を取り出します。



▲ 注意

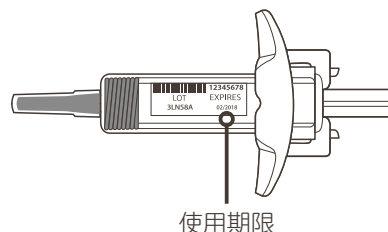
- 注射前の準備が整うまで、針キャップを外したり、プランジャーに触れたりしないでください。
- 固いところに落としたり、破損した注射器は使用しないでください。
- 針キャップが紛失している、またはしっかり取り付けられていない注射器は使用しないでください。

② 使用期限の確認、 その他の準備

取り出したものが「デュピクセント®
皮下注300mgシリンジ」であり、
使用期限が切れていないことを
確認します。

また注射に必要なものを用意します。

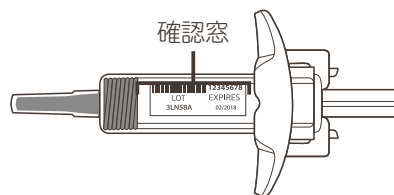
- 消毒用アルコール綿
- 廃棄用容器
- 補助具（ご使用される場合）



使用期限

③ 薬液の確認

注射器の確認窓から、注射液が無色または薄い黄色で、濁っていないことを確認します。注射液中に気泡が見られる場合がありますが、問題ありません。

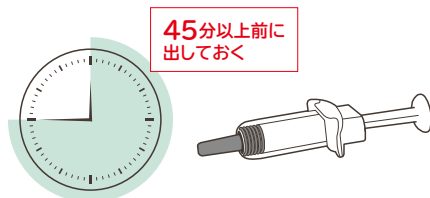


▲ 注意

- 注射液が本来の色（無色か薄い黄色）と違う、または濁っている場合、注射液中に粒子などが見られる場合は使用しないでください。

④ 室温に戻す

注射器を平らな場所に置き、
室温に戻しておきます。
45分以上室温に置いてから注射
します。



▲ 注意

- 注射器は温めず、直射日光を避け室温に戻してください。

注射する部位

■ 注射に適した部位は以下の3カ所です。

上腕部（二の腕）の外側

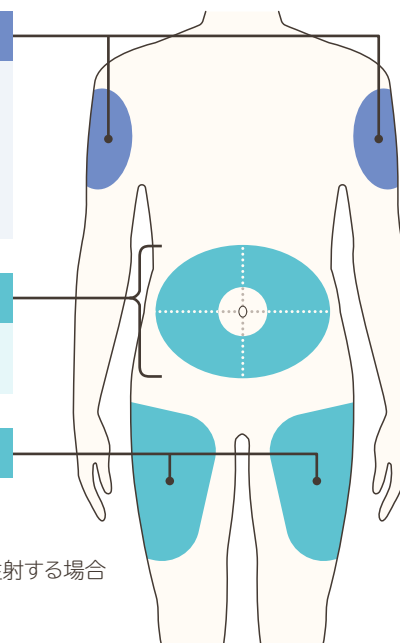
ご家族が患者さんに注射する場合は、上腕部（二の腕）に注射することも可能です。
患者さんご自身が注射する場合は、この部位は避けてください。

へそ周り以外の腹部

へその周り5cmは避けて注射してください。

太もも

- 患者さんご自身、またはご家族が患者さんに注射する場合
- ご家族が患者さんに注射する場合
(患者さんご自身が注射する場合は避ける)

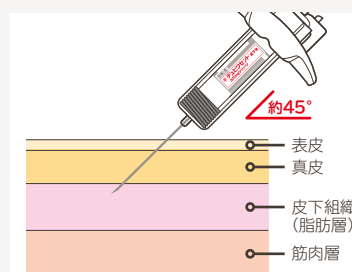


- アトピー性皮膚炎の症状が重い部位、痛みがある部位、けがをしている部位、打撲や傷跡のある部位は避けてください。
- ▲ 注意 ● 前回注射した部位とは違う部位に注射してください。
- 腹部に注射する場合は、上図のように上下左右で4カ所に分けて前回の注射とは別の箇所を選んで注射してください。

「皮下注射」とは？

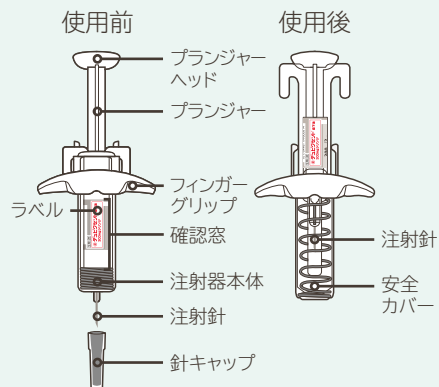
デュピクセント®は皮下注射という方法で注射します。

- 皮膚の下にある皮下組織（脂肪層）に注射します。
- 柔らかく少したるみがあるような部位を選ぶと注射しやすいでしょう。



注射の方法（補助具なし）

各部の名称



⚠ 注意

- プランジャーは絶対に後ろに引かないでください。

① 消毒する

両手を石鹸でよく洗い、清潔なタオルで拭きます。消毒用アルコール綿で注射する部位を消毒し、乾かします。

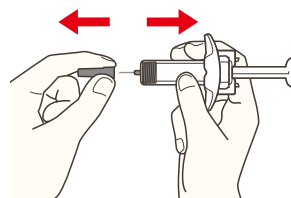


⚠ 注意

- 消毒後は注射部位に触れたり、息を吹きかけたりしないでください。

② 針キャップを外す

注射器本体の中央部分を持ち、針キャップを外します。

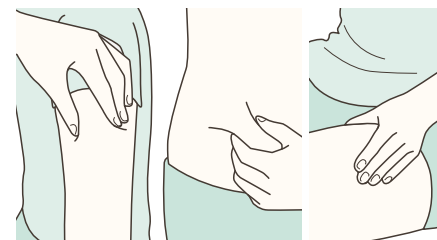


⚠ 注意

- 注射直前まで針キャップを外さないでください。
- 一度外した針キャップは再度取り付けないでください。
- 注射針には触れないようにしてください。
- 針キャップを外したら、針が他の物と接触しないようにし、素早く注射を行ってください。
- 注射器内に気泡が見られる場合がありますが、問題ありませんので気泡を取り除く必要はありません。

③ 皮膚をつまむ

注射針をしっかり挿入するために、注射する部位の皮膚をひだ状につまみます。



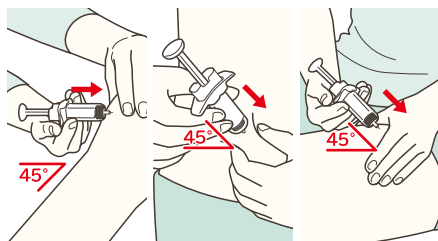
上腕部（二の腕） 腹部 太もも
（ご家族のみ）

⚠ 注意

- 衣服の上から注射はしないでください。

④ 約45度の角度で注射針を挿入

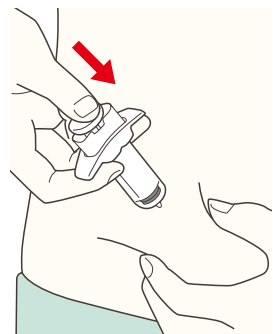
注射針をひだ状にした皮膚に約45度の角度で完全に挿入します。介助者が注射する場合、針を挿入してから、注射液を注入する前に、しびれがないか確認してください。しびれがある場合は針先を少し引いてください。



上腕部（二の腕） 腹部 太もも
（ご家族のみ）

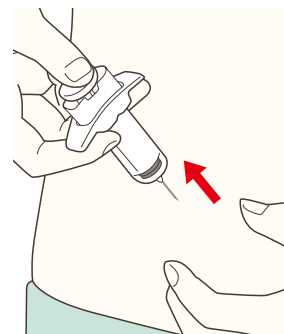
⑤ 注射液を注入する

皮膚をつまんでいる手を緩め、プランジャーヘッドを注射液がなくなるまでゆっくり押し込みます。注射の際に抵抗を感じても、問題はありません。引き戻すことなく、ゆっくり押しください。プランジャーヘッドは最後までしっかりと押し込んでください。



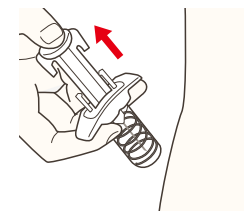
⑥ プランジャーヘッドを押したまま、注射針を抜く

プランジャーヘッドを押したまま、挿入したときと同じ角度（約45度）で、注射針を抜きます。



⑦ 注射後

注射針を抜いた後に、プランジャーヘッドを押していた指をゆっくりと緩めます。安全カバーがスライドして、注射針が安全カバーに覆われます。出血がある場合は、消毒用アルコール綿で注射部位を軽く押さえてください。

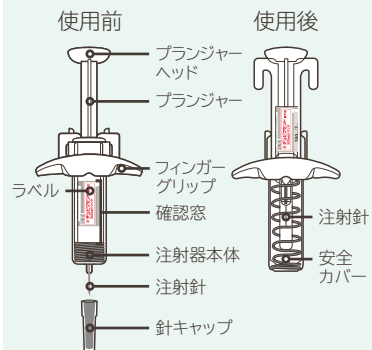


⚠ 注意

- 注射が終わった後も、針キャップは再度取り付けないでください。
- 注射後、注射部位をもんだり、こすったりしないでください。
- 注射器は再利用しないでください。

注射の方法（補助具あり）

各部の名称



注意

- プランジャーは絶対に後ろに引かないでください。

① 消毒する

両手を石鹸でよく洗い、清潔なタオルで拭きます。消毒用アルコール綿で注射する部位を消毒し、乾かします。

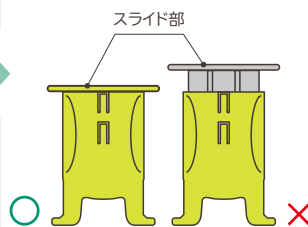


注意

- 消毒後は注射部位に触れたり、息を吹きかけたりしないでください。

② 補助具のスライド部の位置を確認する

使用を始める前に、先端のスライド部が図の位置まで下がっていることを確認してください。

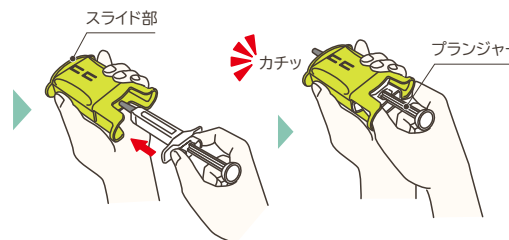


注意

- 補助具の破損がみられるまたは動作に不具合がある場合は、補助具の使用を中止して、かかりつけの医療機関へ連絡してください。

③ 補助具に注射器をセットする

補助具の後部から、注射器をカチッと音がするまでしっかり奥までさしこみ、セットしてください。

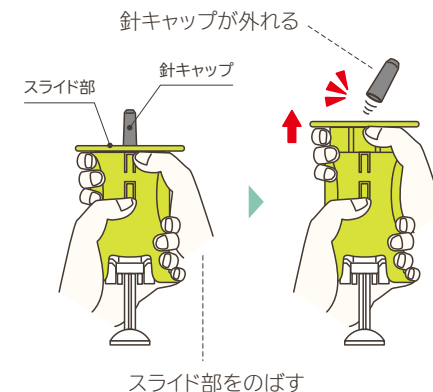


注意

- 補助具のスライド部を触らないでください。
- 注射器のプランジャーを持たないでください。

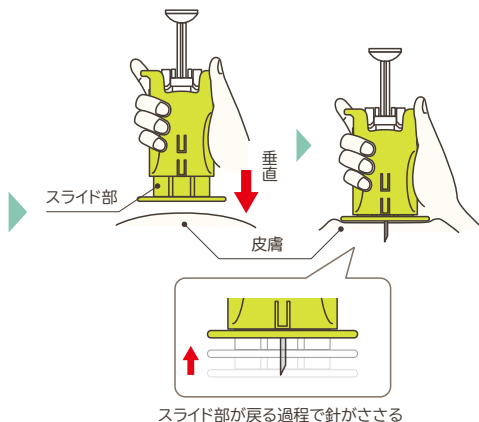
④ 注射器の針キャップを外す

両手で補助具を持ち、スライド部をのばして、針キャップを外してください。



⑤ 注射針を垂直にさす

補助具を持ち、注射針を皮膚に垂直にさします。

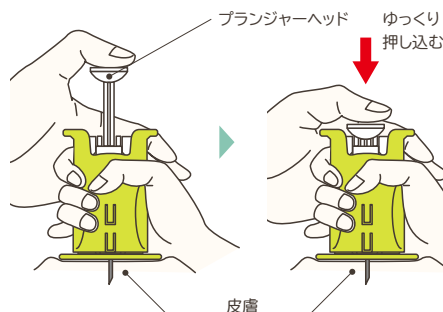


注意

- スライド部に手が触れると、スライド部の動きの妨げになるので注意してください。

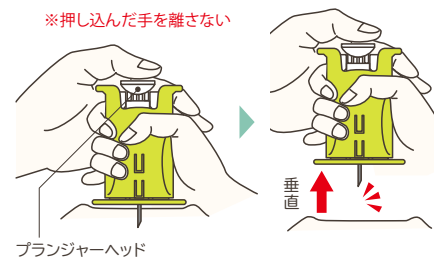
⑥ 注射液を注入する

補助具を肌に押し付け、極力動かさないように固定します。固定できたら、反対の手で注射器のプランジャーヘッドをゆっくり押し込みます。プランジャーヘッドは最後までしっかりと押し込んでください。



⑦ プランジャーヘッドを押したまま、注射針を抜く

注射液を注入後、プランジャーヘッドを押したまま、手を離さず、補助具ごと注射針を抜きます。

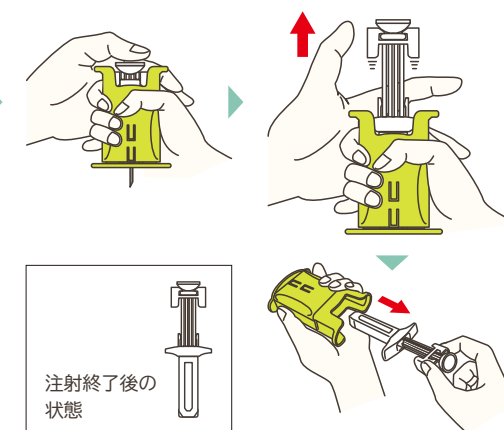


注意

- 注射後、注射部位をもんだり、こすったりしないでください。
- 注射が終わった後も、針キャップは再度取り付けしないでください。
- 注射器は再利用しないでください。

⑧ 補助具から注射器を取り外す

プランジャーヘッドから手を離すと注射器の後ろが自動で上がってきます。最後に図のように注射器の後ろをつかんで、補助具から抜きます。補助具は繰り返し使用できます。



注射器の廃棄方法

注射器と針キャップの廃棄

- 一度外した針キャップは注射器に取り付けしないでください。
- 使用済みの注射器と針キャップは医療機関から提供された廃棄用容器に入れてください。
- 医療機関の指示に従って、医療廃棄物として廃棄してください。



注意

- 廃棄用容器がない場合は、蓋つきのビンや缶などの穴のあかない固い容器でも代用できます。
- 使用済みの消毒用アルコール綿は、各市区町村の収集方法に従って家庭ごみとして捨ててください。
- 廃棄用容器は、お子さんの手の届かないところに保管してください。
- 廃棄用容器は再利用しないでください。

治療日誌への記入について

忘れずに記入しましょう

注射が終わったら、治療日誌に、注射の日時、注射した部位を記入しましょう。

また体調の変化などがあれば、それも記入しておきましょう。

自己管理に役立てましょう

治療日誌の記録を元に、次回の注射予定日や注射部位を確認して、注射のし忘れや、前回と同じ部位に注射してしまうことを避けるようにしましょう。

診察時に持参しましょう

診察時に治療日誌を持参し、主治医に確認してもらいましょう。

この治療日誌は主治医が、注射がスケジュール通りにできているかを確認し、また注射の影響や病気の変化を把握するための大切な情報になります。





よくあるご質問

Q 注射予定日に注射するのを忘れてしまいました。
どうすればよいですか？

A 主治医に連絡し、主治医の指示に従ってください。

Q 指示された本数よりも、多く注射してしまいました。
どうすればよいですか？

A すぐに主治医に連絡し、主治医の指示に従ってください。

Q デュピクセント®と一緒に他の薬も処方されました。
使ってもよいのでしょうか？

A 処方されている塗り薬や飲み薬、吸入薬などは指示された通りに使用しましょう。自己判断で中止しないでください。

Q 何時ぐらいに注射するのがよいのでしょうか？

A 注射時間に特に決まりはありません。
ご都合のよい時間帯に注射してください。

Q 体調が悪いのですが、
予定通りに注射しても大丈夫でしょうか？

A 自己判断はしないで主治医に連絡し、主治医の指示に従ってください。

Q 注射予定日に旅行や出張が重なってしまいました。
どうしたらよいですか？

A 注射予定日に外泊することが分かったら、あらかじめ主治医に相談してください。

Q 注射が痛いのですが、痛みをやわらげる方法がありますか？

A 注射液が冷たすぎると痛みを感じやすくなるため、しっかりと室温に戻してから注射してください。注射器は、注射の45分以上前に冷蔵庫から取り出しておきます。痛みが続く場合は主治医に相談してください。